

## 学校図書館講座

## 学校図書館に司書を！

—杉並区学校司書制度創設に  
かかわって—

講師：竹田 裕子氏  
(元杉並区学校司書)

発表：渡邊 愛子氏  
竹内 康子氏  
(川越市学校図書館図書整理員)

東京都杉並区に学校司書制度を創ろうと活動され、杉並区学校図書館司書・全校配置を実現した取組みについて、竹田裕子氏にお話しいただきました。また、川越市学校図書館図書整理員として市内の中学校に勤務されている渡邊愛子氏、竹内康子氏には、川越市の学校図書館図書整理員の取組や制度、自主研修会など実際にどんな活動をされているのかをお話しいただきました。



■講師 竹田 裕子氏

### 1. 学校司書制度創設への道

自分が司書になりたいと思って運動を始めたわけではありませんが、地域（杉並区・練馬区）では、当時から学校や児童館・保健所・保育園などで本の紹介やストーリーテリングを続けていました。

公立図書館の委託・指定管理化が目立ってきた時期、引越し先の杉並区には学校司書制度がなく疑問に感じました。そこで「杉並区

に学校司書をおきたい」と強く思い、杉並区に学校司書制度を創ろうと活動を開始しました。

その当時ストーリーテリングで活動していた小学校の図書主任と意気投合し、学校司書に関する思いを校長先生に話すことで、職員会議にかけていただくことができました。そして、その小学校から、平成18年4月から学校司書として勤務することを依頼されました。杉並区の学校司書制度のできるまでの4年数か月間は、その小学校独自の学校司書として勤務しました。

仕事内容は「本のことはまかせるから」と一任され、図書室の環境整備、本の整理や配置、カーテン、学級文庫・校内団体貸し出し等について、自分自身の経験・資格をいかして、司書教諭と話し合いながら工夫・改善を続けました。すると、この小学校の図書館の評判が広がっていききました。また、学校でも地域でも学校図書館を整えることの大切さを言い続けました。PTA や校長会では機会があるごとに話題にしてもらいました。文庫連で縁のあった都議会議員には、どういう形での学校司書制度を望むのかを伝えることで、議会の議題に取り上げていただくこともできました。いろいろな人とのつながりがあって、その中で声を上げ活動を続けることにより、幸い活動が実り、平成21年に杉並区学校司書制度ができました。

### 2. 杉並区学校図書館制度

杉並区では、平成21年度から公募により採用選考を行っています。1年目は小学校7校、中学校4校の計11校に学校司書の配置。2年目は11校増え、3・4年目は22校増えて、4年目で全校配置（当時66校）となりました。現在、小学校全校（41校）、中学校全校（23校）、合わせて64校に全て学校司書を配置しています。私自身、学校司書制度を創る運動中と制度ができてからと、通算10年間杉並区の学校司書として務めました。

### 3. おわりに

最初から、「杉並区に学校司書制度を創る」という目標を掲げて活動を始めました。それは機運を高めていくように働きかけて実例を作っていくというやりかたでした。とにかく、学校でも地域でも学校図書館を整えることの大切さを言い続けました。最終的には機運が高まり、議会で取り上げられ実現しました。その時には、たくさんの人や団体が関わり、自分たちこそが制度を創ったと喜ぶ状態になっていました。自分一人ではできないことも、多くの人に関心を持ち耳を傾け動くことで実現できます。あきらめない思い、人とのつながりは大きな力になります。

#### ■発表 竹内 康子氏

##### ・川越市学校図書館図書整理員の活動

川越市では、平成6年より図書整理員（学校司書）の配置を行っています。現在、小学校33校（5名が1校勤務、14名が2校兼務）、中学校22校（全員2校兼務）となっています。任用期間は各学期ごとで、身分は臨時職員です。勤務時間は、月～金曜日の10:00～15:30まで（4.5時間勤務）で時給910円です。

市の研修会は年3回あります。各回みなさん真剣に参加され意欲的に交流するなど、学期に一度の研修を有意義に過ごしています。また、図書整理員独自で自主研修会を年9回行っています。

川越市小・中学校における学校図書館図書標準の達成率は年々上昇しており、平成29年度には、小学校91.5%、中学校110.3%となりました。図書資料の選定と廃棄は、市の規定に基づき計画的に行われています。また、平成15年には小・中学校の一斉のデータベース化が行われました。

川越市学校図書館における読書活動の推進の取り組みとしては、以下のものがあります。

##### ・小江戸読書マラソンカード

（小学校33校：平成14年度より）

##### ・小江戸読書手帳

（中学校22校：平成19年度より）

##### ・朝読書

##### ・ボランティアによるおはなし

##### ・ビブリオバトル

##### ・公共図書館との連携

（学校向け団体貸出、授業時間内の図書館利用）



#### ■発表 渡邊 愛子氏

##### ・自主研修会の記録

川越市学校図書館図書整理員向けの市の研修は、多いときは年19回ありましたが、現在は年3回です。そこで、図書整理員独自で研修を現在年9回実施しています。参加は自由です。きっかけは、川越市内の小・中学校の図書館データベース化でした。各学校の実情が違い、多くの場面で判断に困り、話し合って検討したり、作業を確認したりするということが切実に求められていました。そこで、平成16年に「子どもの本を語る会」として自主研修会を立ち上げました。当時は小学校担当8名、中学校担当5名の計13名からのスタートでした。現在は、30名いる図書整理員のうち23名が参加しています。研修は、子どもたちに良い本を手渡すために、お互いに本を見る目を養い、選定能力を上げるうえで、大きな成果をあげていると思います。

講演・発表の後、参加者の皆様からの質疑応答や、それぞれの地域での取り組みなどの情報交換を行い、交流を深めることができました。

（記録：埼玉県立久喜図書館 中村 由美）